



Your Dream Is Our Business

化学で夢のお手伝い

第158期 株主通信

2015年4月1日～2016年3月31日

BUSINESS REPORT

証券コード 4112

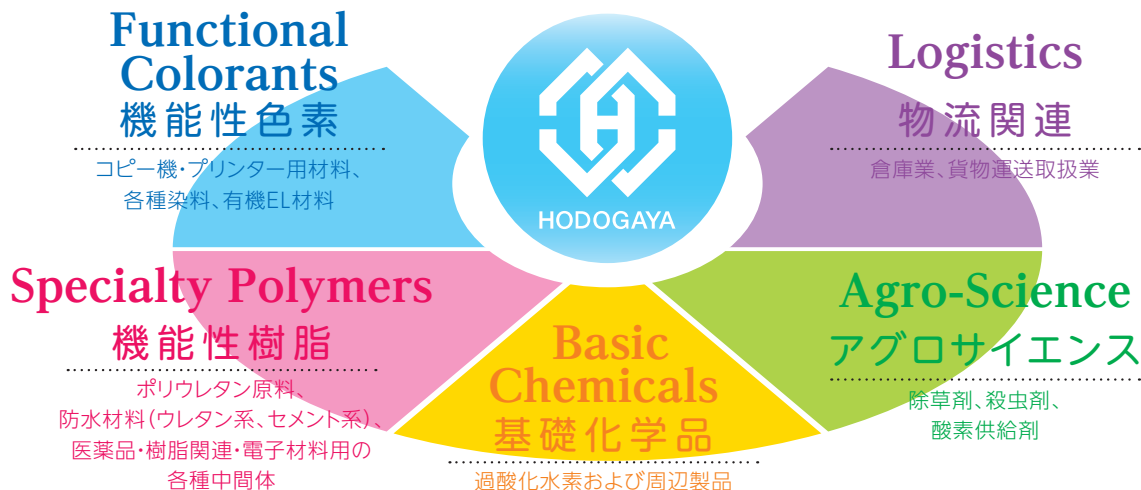


保土谷化学

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、
お客様が期待し満足する
高品質の製品・サービスを世界に提供し、
環境調和型の生活文化の創造に貢献します。

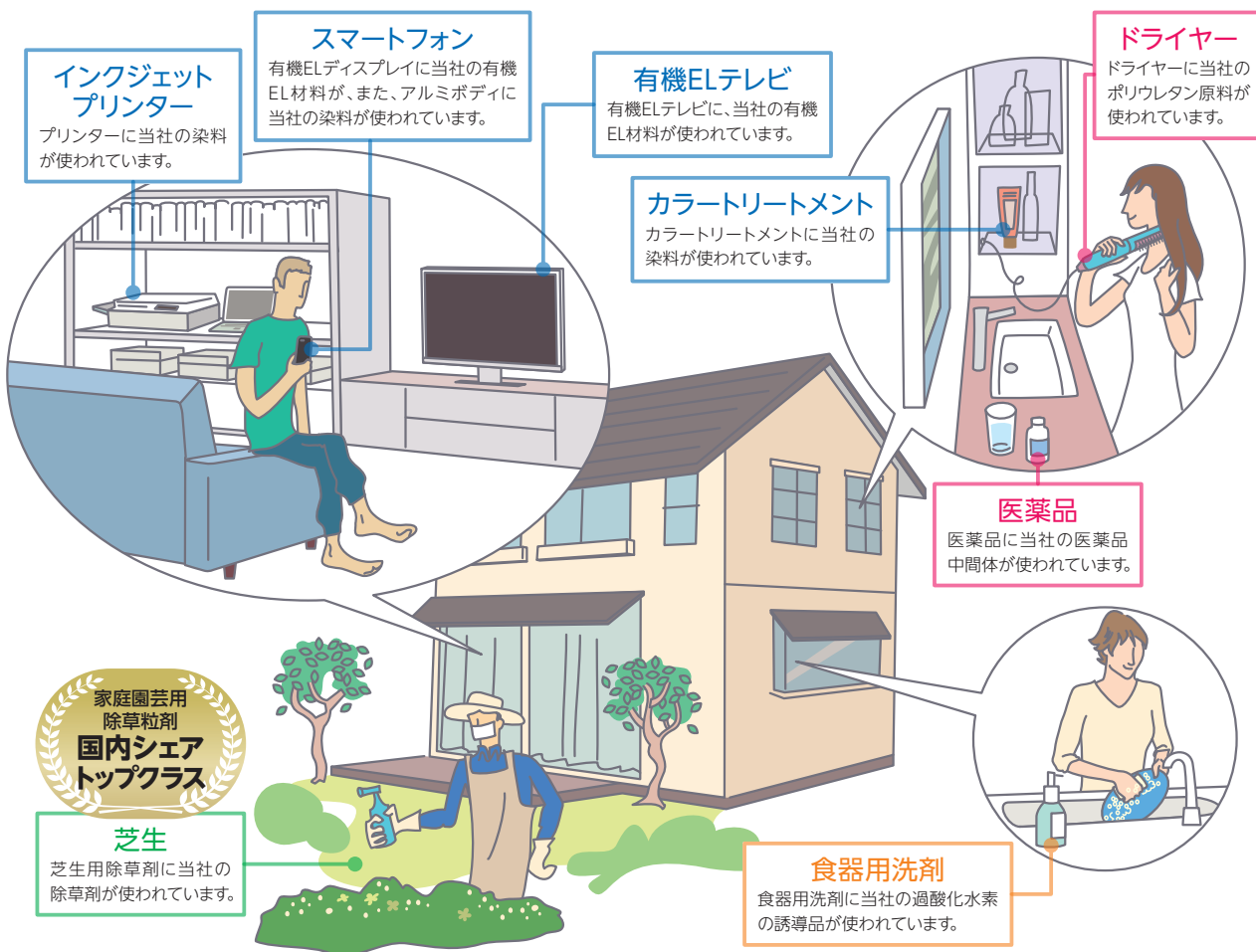
〔事業概要〕

保土谷化学グループ（以下、当社グループ）の特長は、機能性色素・機能性樹脂・基礎化学品・アグロサイエンス・物流関連などの各分野で、当社グループ各社が高いスペシャリティを持っていることです。研究開発・生産・販売が三位一体となり、お客様の多種多様なニーズに対して、スピーディーに高品質の製品やサービスを提供してまいります。



化学は、暮らしや社会の基盤となる、様々な材料を創り出す技術です。

ファッションや食品、家具や住まい、医薬品や最先端のIT機器にいたるまで、化学のちからが支えているのです。当社グループは、創業以来100年にわたって、高度な化学技術で時代のニーズや未来の夢をかたちにしてきました。その一部をご紹介します。



厳しい経営環境を乗り越え、 当初の目標へ向けて 中期経営計画 “HONKI 2020”を 再スタートさせます。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの熊本地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、今年、当社グループは、創立100周年という節目の年を迎えます。これもひとえにお客様やパートナー企業様、そして株主の皆様のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

現在、当社グループでは、2020年度を最終年度とする中期経営計画“HONKI 2020”を、推進しております。その計画初年度となる2015年度の業績は、需要低迷の影響を受けて減収となる一方で、コスト削減等の取り組みにより、営業利益は増加となりました。

ここに2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の業績、および今後の見通しについてご報告いたします。

2016年 6月



保土谷化学工業株式会社
取締役社長

喜多野 利和

[2016年3月期連結業績サマリー]

(前期比)

売上高	33,826百万円	△2.5%
営業利益	828百万円	+4.0%
経常利益	633百万円	△13.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	811百万円	+30.0%

当期の業績について

売上減少の影響で減収となる一方、増益により利益目標は達成しました。

2015年度におけるわが国の経済環境は、政府・日本銀行による経済・金融政策が、企業業績や雇用環境の改善を促し、緩やかな景気回復が継続しました。その一方で、中国・新興国経済の減速傾向、そして、世界的な原油価格下落が鮮明化する中、世界経済の下振れリスクが高まり、世界同時不況も懸念される状況にありました。

このような情勢のもと、当社グループでは、2015年度を初年度とする中期経営計画“HONKI 2020”を始動させ、基盤事業強化や新事業の育成に向け、新たな一歩を踏み出しました。しかし、当期の市場環境は、前述の通り極めて厳しい状況にあり、需要低迷による売上減少の中での、増益という結果となりました。

その中、機能性色素セグメントでは、デジタル家電向けアルミ着色料や食用色素が好調だったものの、プリンター向け材料の需要低迷が響いた結果、減収となりました。機能性樹脂セグメントは、ウレタン原料

や止水材料・工事、医薬品分野などが堅調に推移する一方で、防水材料の低迷や特殊化学品での顧客の在庫調整があり、減収となりました。基礎化学品セグメントは、過酸化水素の誘導品や、その他工業薬品の需要が減少したものの、紙パルプや環境分野向けの過酸化水素が堅調に推移して、増収となりました。アグロサイエンスセグメントは、家庭園芸用除草剤などが前期並みに推移したものの、殺虫剤の顧客の在庫調整などにより、減収となりました。物流関連セグメントは、輸出入事業や倉庫事業が堅調に推移し、増収となりました。

これらを総合した結果、当期の連結売上高は、338億26百万円（前期比2.5%減）となりました。また、損益面では、営業利益は、8億28百万円（前期比4.0%増）、経常利益は、営業外で為替が差損に転じたことにより6億33百万円（前期比13.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、8億11百万円（前期比30%増）となりました。

なお、当期の配当金につきましては、業績動向、将来の事業展開、不測のリスク等を総合的に勘案し、期末配当金を1株当たり2円50銭とし、中間配当金2円50銭と合わせ、年間で5円とさせていただきます。

[2016年3月期決算のポイント]

- ▶ POINT① 売上高は、有機EL材料・一部の工業薬品や樹脂材料の需要減少等により減収
- ▶ POINT② 営業利益は、売上が減少したものの、売上原価および販管費の減少により増益
- ▶ POINT③ 経常利益は、営業利益が増加したほか、営業外で退職給付費用が減少したものの、為替が差損に転じたことにより減益
- ▶ POINT④ 親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益が減少したものの、非支配株主に帰属する当期純利益の減少等により増益

中期経営計画について

計画初年度の売上目標未達を挽回し、
当初の中計目標の必達を目指します。

当期から始動した2020年度までの6カ年にわたる中期経営計画“HONKI 2020”（Hodogaya as **Only one, Number one with our Key technology and Imagination**）では、基盤事業の強化を図りながら、将来の事業の強化・育成を進めております。

当期の状況を振り返りますと、現在もすでに収益を上げている「基盤事業」については、機能性樹脂セグメントの建材事業が安定的に推移したほか、機能性色素セグメントのOPC材料（有機光導電体ドラム用材料）で、新製品が、グローバルに拡販されました。また、2015～2016年度に成果が摘み取れる「成長事業」では、基礎化学品セグメントの過酢酸や、メガソーラー向け管理請負業務で成果が摘み取れる段階を迎えており、動物薬用過酸化水素も着実にシェアを伸ばしております。そして、2017～2018年度に成果が摘み取れる「育成事業」、2019年度以降に成果が摘み取れる「新製品創出」についても、いくつかの領域で取り組みの成果が出始めており、新しい種が芽を出しつつある状況です。

(1)競争力を取り戻し「安定した収益基盤の確保」

①**基盤事業**：現在もすでに収益を上げている事業

〔基本方針〕 コストダウンの実施、生産能力増強、新規用途開発、グローバルに拡販

〔主要事業〕 **〔機能性色素セグメント〕** 既存CCA（電荷制御剤）、アルミ着色用染料、文具用染料、カラートリートメント用染料

〔機能性樹脂セグメント〕 既存ポリオール材料（バイオポリオール、特殊ポリオール）、ホスゲン誘導品、タイヤ用接着剤、防水材、止水材

〔基礎化学品セグメント〕 過酸化水素、過炭酸ソーダ

〔アグロサイエンスセグメント〕 除草剤、殺虫剤、受託製剤

〔物流関連セグメント〕 物流・倉庫業

(2)「次世代の柱」を確立

②**成長事業**：2015～2016年度に成果が摘み取れる事業

〔基本方針〕 成長する市場の中で売上高・シェアを拡大、戦略的投資の展開

〔主要事業〕 **〔機能性色素セグメント〕** 有機EL材料、環境対応型CCA（電荷制御剤）

〔基礎化学品セグメント〕 過酢酸、動物薬用過酸化水素

〔アグロサイエンスセグメント〕 除草液剤、メガソーラー緑地管理分野

(3)「新たな付加価値」の創出による事業領域の拡大

③**育成事業**：2017～2018年度に成果が摘み取れる事業

〔基本方針〕 新製品の創出、売上高・販売シェアの拡大

〔主要事業〕 **〔機能性色素セグメント〕** カラーフィルター用染料、カラートナー用CCA（電荷制御剤）、インクジェット用染料

〔機能性樹脂セグメント〕 新規ポリオール材料

〔アグロサイエンスセグメント〕 農業用途向け過酸化物

④**新製品創出**：2019年度以降に成果が摘み取れる事業

〔基本方針〕

・2020年度に「新製品売上高50億円」を目指す

・当社グループの長い歴史の中で培われた、有機合成力・製造技術力を基礎とした「高純度化技術力」・「機能素材開発力」・「機能素材評価力」を活用し、スペシャリティ製品を上市、「豊かな社会」への貢献を目指す

(4)グローバル運営体制の一層の強化

[基本方針] グローバル・ニッチ分野で、顧客ニーズを的確に把握し、事業活動を推進する

(5)多様化する社会に対応できる人材の育成

[基本方針] 「自ら考え、調べ、行動する」人材を育成し、グループの活性化を促す

(6)CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)の取り組みの強化

[基本方針] 全てのステークホルダーからの信頼を維持・強化し、社会の発展に貢献する

前述の通り、当期は需要低迷が大きく響き、不冴えな結果となりました。しかし当社グループでは、当初の6ヵ年計画の最終目標を、これからの5年間で達成する、という固い決意のもと、全社員一丸となって取り組んでまいります。そして今後もひとつひとつの施策に全力で取り組み、その成果を着実に積み上げながら、目標達成に向けて邁進していく所存です。

[経営目標]	2020年度 (計画)
売上高	500億円
営業利益	50億円
営業利益率	10.0%

2017年3月期の見通し

明るい兆しの中で迎える創立100周年、競争力強化へ向けた取り組みに注力します。

当社グループが創立100周年を迎える2016年度は、有機EL材料をスマートフォンに採用する動きが見られるなど、市場環境に明るい展望も開けつつあります。こうした中、当社グループでは従来からの拡販やコストダウンのための取り組みのほか、グローバル運営体制強化のための人材育成にも注力してまいります。また、この4月に設立したCSR委員会を中心に、CSR活動のさらなる充実化を図っていく考えです。

以上の取り組みの成果として、2016年度通期の連結業績予想は、売上高340億円（前期比0.5%増）、営業利益10億円（前期比20.8%増）、経常利益9億円（前期比42.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益8億円（前期比1.4%減）を見込んでおります。また、年間配当金につきましては、創立100周年の記念配当を加え、1株当たり6円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

[2017年3月期連結業績予想]	
売上高	340億円
営業利益	10億円
経常利益	9億円
親会社株主に帰属する当期純利益	8億円

機能性色素



[当期の概況]

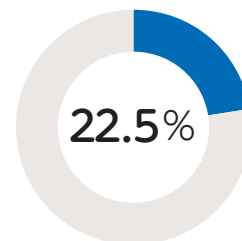
イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要の低迷で依然厳しい状況が続いており、一部で新製品の採用があったものの、減収となりました。色素材料事業は、デジタル家電向けアルミ着色用染料が好調に推移し、食用色素での需要が回復したことで増収となりました。有機EL材料事業は、ディスプレイ分野で着実に広がりを見せておりますが、同時に競争激化も進んでおり、減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は76億24百万円、営業損失は15億96百万円となりました。

[売上高]

76億24百万円

(前期比8.1%減)

[セグメント別売上高比率]

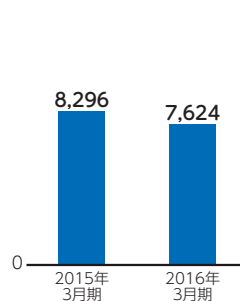


[営業利益(△損失)]

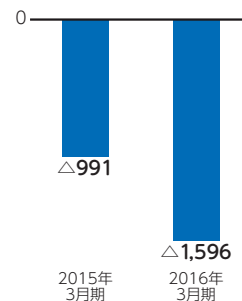
△15億96百万円

(前期比―)

[売上高(百万円)]



[営業利益(△損失)(百万円)]



事業

用途

イメージング
材料

トナーの重要な添加剤である電荷制御剤、コピー機・プリンターの心臓部品である有機光導電体ドラム用の材料、インクジェットプリンター用の染料

色素材料

アルミ着色用および文具用の染料、カラートリートメント用染料、食品添加物

有機EL材料

有機ELディスプレイ・照明の主要材料
(正孔輸送材料・電子輸送材料・発光材料)

機能性樹脂



[当期の概況]

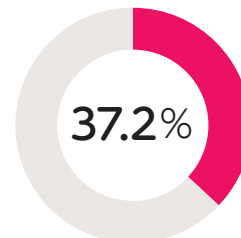
樹脂材料事業は、弾性繊維用途向けで安定した需要が続きましたが、建築用途向けは競争激化により減収となりました。建築材料事業は、止水材料の販売や止水工事が引き続き好調に推移しましたが、ウレタン系防水材料の販売が、競争激化により低迷し前期並みとなりました。特殊化学品事業は、医薬品分野で好調に推移しましたが、その他の分野で海外顧客での在庫調整があり、前期並みとなりました。以上の結果、当セグメントの売上高は125億94百万円、営業利益は9億59百万円となりました。

[売上高]

125億94百万円

(前期比1.6%減)

[セグメント別売上高比率]

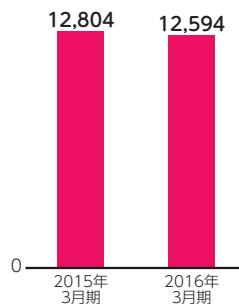


[営業利益]

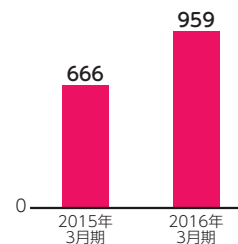
9億59百万円

(前期比44.0%増)

[売上高(百万円)]



[営業利益(百万円)]



事業

用途

樹脂材料

ポリウレタン原料、接着剤、剥離剤

建築材料

ウレタン系防水材料
(ビルや立体駐車場の屋上 ほか)
セメント系防水材料・止水材料
(下水場、浄水場、地下ピット ほか)

特殊化学品

医薬品・樹脂関連・電子材料用の各種中間体

基礎化学品



[当期の概況]

過酸化水素事業は、過酸化水素の誘導品やその他工業薬品の需要が減少しましたが、紙パルプ、および環境分野向けの過酸化水素が堅調に推移したことにより、増収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は67億19百万円、営業利益は6億72百万円となりました。

[売上高]

67億19百万円

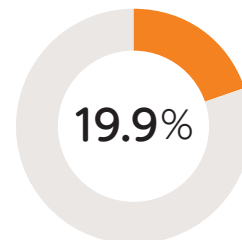
(前期比0.7%増)

[営業利益]

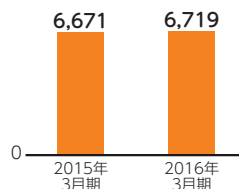
6億72百万円

(前期比339.2%増)

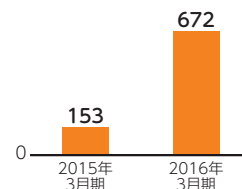
[セグメント別売上高比率]



[売上高(百万円)]



[営業利益(百万円)]



事業

工業薬品
(過酸化水素)

用途

紙パルプ・繊維などの漂白剤、土壌処理などの環境浄化剤、養殖魚の寄生虫駆除剤 ほか



ホームページのご案内

当社ホームページでは、個人投資家の皆様へ向けたページを設けております。当社をより理解していただくための様々な情報を掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.hodogaya.co.jp/>

アグロサイエンス



[当期の概況]

農薬事業は、家庭園芸用除草剤などで前期並みに推移しましたが、殺虫剤で顧客の在庫調整があり、減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は47億円、営業利益は3億23百万円となりました。

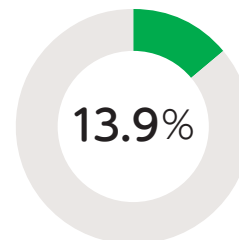
[売上高]

47億円
(前期比1.9%減)

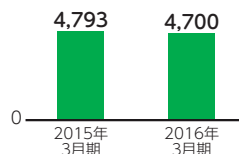
[営業利益]

3億23百万円
(前期比33.5%減)

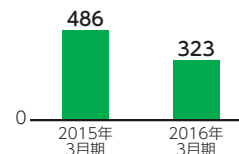
[セグメント別売上高比率]



[売上高(百万円)]



[営業利益(百万円)]



事業

農薬

用途

非農耕地・ゴルフ場・緑地管理分野などの
除草剤・殺虫剤・酸素供給剤 ほか

ホームページ「あなたの周りの保土谷化学」

日常の中で当社グループの製品がどのようなものに使われているのか、イラストでわかりやすくご紹介しています。ぜひご覧ください。

ここを
クリック



あなたの
周りの
保土谷化学

物流関連



[当期の概況]

物流関連事業は、輸出入事業や、倉庫事業が堅調に推移し、増収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は19億48百万円、営業利益は4億53百万円となりました。

[売上高]

19億48百万円

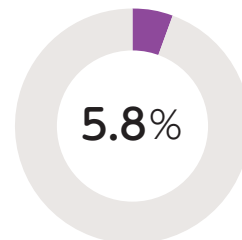
(前期比10.4%増)

[営業利益]

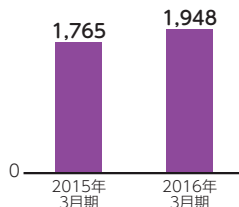
4億53百万円

(前期比1.3%増)

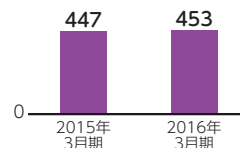
[セグメント別売上高比率]



[売上高(百万円)]



[営業利益(百万円)]



事業

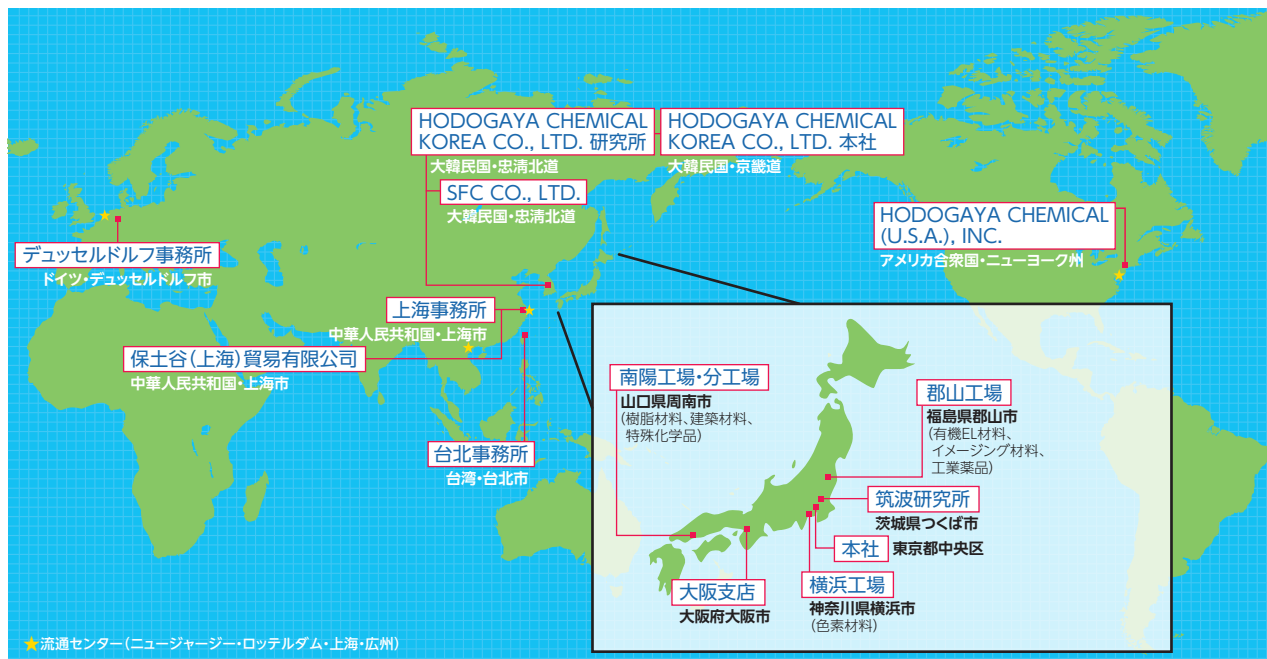
用途

物流関連 倉庫業、貨物運送取扱業

100周年記念ロゴ

創立100周年を記念して、記念ロゴを従業員から公募し、作成いたしました。記念ロゴには、『未来に向けて、新しい化学技術の芽を無限に生み出し、また、「化学で夢のお手伝い」から、その夢を実現させ、かたちにしていく』という想いが込められています。





〔グループ会社〕 (当社の出資比率)

機能性色素

SFC CO., LTD. (大韓民国)

有機EL材料および精密化学品の製造・販売 51.9%

HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.

化学品の仕入・販売および開発 85.0%

機能性樹脂

保土谷バンデックス建材(株)

土木・建築材料の製造・販売 100.0%

基礎化学品

共同過酸化水素(株)

過酸化水素の製造 25.0%

アグロサイエンス

保土谷UPL(株)

農薬の製造・販売 60.0%

保土谷アグロテック(株)

農薬の製造・販売 80.0%

他グループ会社1社

物流関連

保土谷ロジスティクス(株)

倉庫業、貨物運送取扱業 100.0%

その他

桂産業(株)

化学品の仕入・販売 100.0%

HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), INC.

化学品の仕入・販売 100.0%

保土谷(上海)貿易有限公司

化学品およびその原料の仕入・販売 100.0%

保土谷JRFコントラクトラボ(株)

化学品の分析および研究・開発業務受託 87.6%

他グループ会社2社

連結財務情報

[連結貸借対照表(要旨)]

(単位:百万円)

科目	前期 (2015年3月31日現在)	当期 (2016年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	23,948	23,742
固定資産	30,534	27,390
有形固定資産	22,625	20,946
無形固定資産	974	301
投資その他の資産	6,934	6,143
資産合計	54,483	51,133

Point
1

Point 1 資産合計

資産合計は、有形・無形固定資産の減少23億52百万円、投資有価証券の減少8億23百万円、受取手形及び売掛金の減少2億27百万円等により、前期末比33億50百万円の減少の511億33百万円となりました。

Point 2 負債合計

負債合計は、短期・長期借入金の減少14億49百万円、支払手形及び買掛金の減少5億円等により、前期末比22億99百万円の減少の200億77百万円となりました。

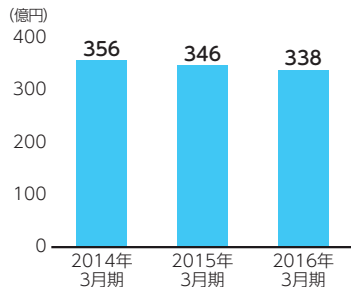
Point
2

(単位:百万円)

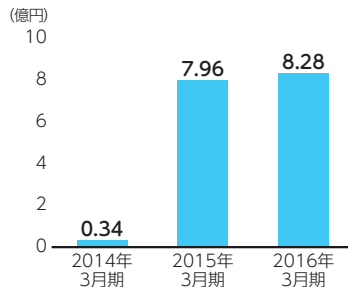
科目	前期 (2015年3月31日現在)	当期 (2016年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	12,618	12,487
固定負債	9,757	7,590
負債合計	22,376	20,077
純資産の部		
株主資本	23,171	23,585
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,589	9,589
利益剰余金	4,084	4,500
自己株式	△1,699	△1,700
その他の包括利益累計額	6,397	5,333
非支配株主持分	2,537	2,137
純資産合計	32,107	31,056
負債純資産合計	54,483	51,133

[連結業績の推移]

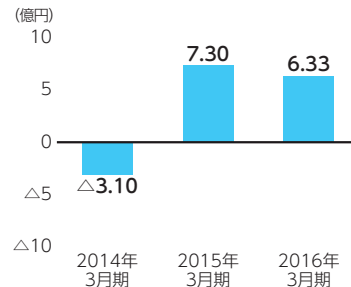
売上高



営業利益



経常利益(△損失)



[連結損益計算書(要旨)]

(単位:百万円)

	科 目	前 期 (2014年4月1日～ 2015年3月31日まで)	当 期 (2015年4月1日～ 2016年3月31日まで)
Point 3	売上高	34,688	33,826
	売上原価	24,184	23,323
	売上総利益	10,503	10,503
	販売費及び一般管理費	9,707	9,674
Point 4	営業利益	796	828
	営業外収益	539	276
	営業外費用	605	472
	経常利益	730	633
	特別利益	126	59
	特別損失	2	30
	税金等調整前当期純利益	854	662
	法人税等	21	64
	当期純利益	833	598
	非支配株主に帰属する当期純利益(△損失)	209	△212
	親会社株主に帰属する当期純利益	623	811

[連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)]

(単位:百万円)

科 目	前 期 (2014年4月1日～ 2015年3月31日まで)	当 期 (2015年4月1日～ 2016年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,753	2,322
投資活動によるキャッシュ・フロー	△489	△780
財務活動によるキャッシュ・フロー	△35	△1,880
現金及び現金同等物に係る換算差額	236	△141
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,464	△479
現金及び現金同等物の期首残高	4,190	6,654
現金及び現金同等物の期末残高	6,654	6,175

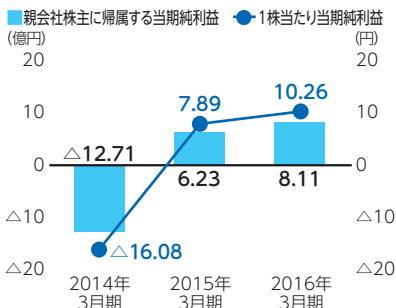
Point 3 売上高

売上高は、有機EL材料・一部の工業薬品や樹脂材料の需要の減少等により、8億62百万円の減収となりました。

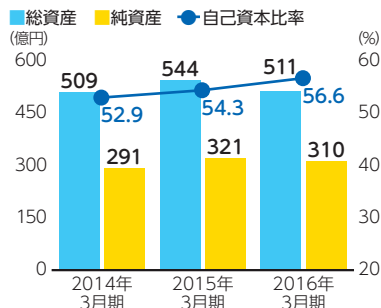
Point 4 営業利益

営業利益は、売上が減少したものの、売上原価および販管費の減少により、32百万円の増益となりました。

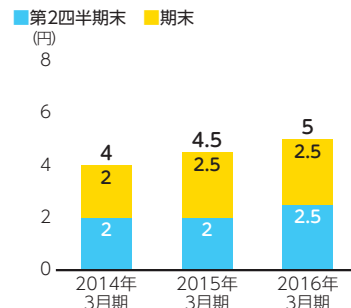
親会社株主に帰属する当期純利益(△損失)



総資産・純資産



1株当たり配当金





コンサートの開催

当社は、2016年11月をもちまして、創立100周年を迎えるにいたり
ました。これもひとえに、株主の皆様のご支援の賜物と心より感謝
申し上げます。また、当社の主力工場である福島県郡山工場も同時
に100周年を迎えることに加え、郡山市は「^{がくと}楽都」として、市を挙げて
音楽に力を入れていることから、郡山の地で、当社の100周年記念の
コンサートを開催する運びとなりました。なお、この記念コンサート
は、福島県や郡山市等よりご後援をいただいております。

【コンサート概要】

保土谷化学 創立100周年記念コンサート

2016年11月5日(土)14:30 開演(13:50 開場) 郡山市民文化センター

グリンカ: 歌劇「ルスランとリユドミラ」序曲

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 第1曲

チャイコフスキー: 交響曲第5番

〈指揮〉小林研一郎(日本フィル桂冠名誉指揮者)

〈ヴァイオリン〉千住真理子

〈管弦楽〉日本フィルハーモニー交響楽団

チケット料金(全席指定): 一般 3,000円/学生 1,500円(大学生~小学生)

プレイガイド

・郡山市民文化センター TEL (024)934-2288

・うすい百貨店 TEL (024)932-0001

・チケットぴあ Pコード:297-269

・ローソンチケット Lコード:22034

・福島放送ホームページからもチケットのお申し込みができます。
<http://www.kfb.co.jp>

お問い合わせ: 福島放送 事業・営業推進部 TEL (024)933-5856

記念サイトのご紹介

当社ホームページに100周年記念サイトを作成いた
しました。100周年記念ロゴ・スローガンの紹介と、
100周年のあゆみを掲載しております。
トップ画面からアクセスできますので、ぜひご覧
ください。



保土谷化学の100年

● 連載第4回 (最終回) — 2001～2016年

広がり続けるビジネスステージで 新たなる100年へ向けて——

21世紀を迎えた当社グループは、さらなる事業多角化と、M&Aなどを通じたグローバル展開に拍車を掛けます。2001年には、ディスプレイなどへの適用が進み、現在注目を集めている有機EL材料の製造がスタートしました。2007年には、テープ等の剥離剤などに利用されるODI (オクタデシルイソシアネート) 事業を買収。着実に事業分野の裾野を広げていきました。

また、2008年にはアグロサイエンス分野で農薬の製造・販売を担う連結子会社を設立したほか、米国・ニューヨーク、中国・上海に続く3番目の海外拠点として韓国に事務所を開設。この海外展開の動きは止まることなく、2010年の台湾・台北事務所開設、韓国・SFC社への出資、ドイツ・デュッセルドルフ事務所開設、2011年の韓国・HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.設立、2012年の韓国・HODOGAYA CHEMICAL KOREA 研究所開設、2014年のインド・Jai Research Foundation社との業務提携へと続き、それぞれの現地法人化や連結子会社化などを通じて、今日のグローバル運営体制の基盤が整えられてきました。

そして今年、飽くなき挑戦と弛まぬ進化の末に、創立100周年を迎える保土谷化学グループ。私たちは次の新たな100年も、化学技術の絶えざる革新が生み出す価値ある製品・サービスを通じて、社会の発展に貢献してまいります。



SFC社屋・研究所



保土谷JRF コントラクトラボ調印式

- 2001年 有機EL材料製造開始
- 2007年 樹脂材料(ODI)事業 買収
- 2008年 保土谷UPL(株) 設立
韓国事務所 開設(2011年に現地法人化)
- 2010年 台湾・台北事務所 開設
SFC社(韓国)へ出資(2011年に連結子会社化)
ドイツ・デュッセルドルフ事務所 開設
- 2011年 (株)日本グリーンアンドガーデン再編、
保土谷アグロテック(株) 設立
HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.(韓国) 設立
- 2012年 HODOGAYA CHEMICAL KOREA 研究所(韓国) 開設
- 2014年 保土谷コントラクトラボ(株)から
保土谷JRF コントラクトラボ(株)へ
商号変更
[Jai Research Foundation社(インド)と業務提携]
- 2016年 創立100周年

会社概要／株式の状況

〔会社概要〕

(2016年3月31日現在)

社 名 保土谷化学工業株式会社

英 文 社 名 Hodogaya Chemical Co., Ltd.

本社所在地 〒104-0028
東京都中央区八重洲二丁目4番1号
ユニゾ八重洲ビル

T E L 03-5299-8000(大代表)

F A X 03-5299-8250

設 立 1916(大正5)年12月15日

資 本 金 111億96百万円

従 業 員 686名(連結)、430名(個別)

〔役員〕

(2016年6月28日現在)

取締役社長兼 社長執行役員	喜多野利和	取締 役 (監査等委員)	三柴 英嗣
取締 役 兼 常務執行役員	砂田 栄一	取締 役 (監査等委員)	蛭子井 敏
取締 役 兼 常務執行役員	笠原 郁	社外取締 役 (監査等委員)	佐藤 正昭
取締 役 兼 常務執行役員	松野 眞一	社外取締 役 (監査等委員)	加藤 周二
取締 役 兼 常務執行役員	松本 祐人	社外取締 役 (監査等委員)	山本 伸浩
取締 役 兼 常務執行役員	富山 裕光		

〔株式の状況〕

(2016年3月31日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株

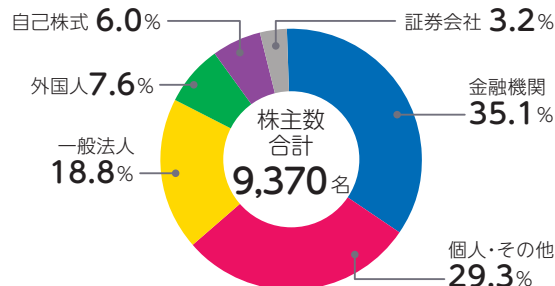
発行済株式の総数 84,137,261株

株 主 数 9,370名

〔大株主〕

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー(株)	7,000	8.3
保土谷化学工業(株)(自己株式)	5,083	6.0
(株)みずほ銀行	2,987	3.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,501	3.0
農林中央金庫	2,274	2.7
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,143	2.5
明治安田生命保険(相)	1,645	2.0
(株)東邦銀行	1,483	1.8
三井住友海上火災保険(株)	1,414	1.7
(株)山口銀行	1,300	1.5

〔所有者別株式分布状況〕



株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
 剰余金の配当基準日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
 定時株主総会 毎年6月中
 単元株式数 1,000株
 株主名簿管理人および
 特別口座の口座管理機関
 公 告 方 法 電子公告(<http://www.hodogaya.co.jp/>)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子
 公告による公告をすることができない場合
 には、日本経済新聞に掲載して行います。

上場株式配当等の支払いに 関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、確定申告の添付書類としてご使用ください。なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式事務に関するお問い合わせ先

証券会社等に口座をお持ちの場合

①郵便物送付先、お問い合わせ先

お取引の証券会社等

②各種手続きのお取扱い
 (住所・名称・代表者変更、単元
 未満株式の買増・買取請求、配当
 金受取り方法の変更等)

③未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店*
 みずほ銀行 本店および全国各支店

【特別口座とは】

2009年1月5日に実施された株券電子化までに、証券会社を通じて株券を証券保管振替機構(ほふり)に預けていない場合に、株主様の権利を保全するために当社がみずほ信託銀行に開設した口座のことです。特別口座では、単元未満株式の買増・買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)

①郵便物送付先、お問い合わせ先

みずほ信託銀行 証券代行部
 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
 フリーダイヤル 0120-288-324

②各種手続きのお取扱い
 (住所・名称・代表者変更、単元
 未満株式の買増・買取請求、配当
 金受取り方法の変更等)

みずほ信託銀行 本店および全国各支店*
 みずほ証券 本店および全国各支店

③未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店*
 みずほ銀行 本店および全国各支店

※トラストラウジ除く

単元株式数の変更および株式併合に関するお知らせ

当社は、2016年10月1日を効力発生日として、単元株式数の変更および株式併合を行います。
なお、株主様におかれましては、特に必要なお手続きはございません。

〔単元株式数の変更〕

株主総会の議決権の単位であり、証券取引所における売買単位である単元株式数を、1,000株から100株に変更いたします。

〔株式併合〕

単元株式数の変更後も、当社株式の売買単位当たりの価格の水準を維持し、また株主様の議決権数に変更が生じることがないように、10株を1株の割合で併合いたします。この結果、発行可能株式総数は、20,000,000株となります。また、1株に満たない端数株式が生じた株主様に対しましては、これに相当する金額を中間配当金とあわせてお支払いいたします。

お取引の証券会社または当社株主名簿管理人（18ページ参照）までお問い合わせください。

〔IRカレンダー 2016年度予定〕

